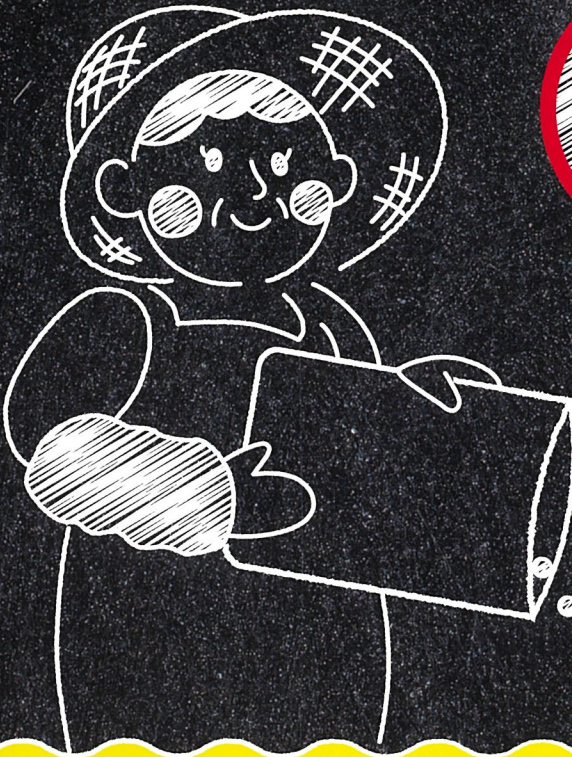


花・観葉植物・野菜に

広範囲の 害虫に効果!!



アオムシ



アブラムシ



ヨトウムシ

- ✓ 粒タイプで使いやすい!
- ✓ 土の上に撒くだけカンタン!
- ✓ 虫嫌いの人にもおすすめ!

殺虫剤

「^{シン}興^{バン}農」ジェネレート®粒剤

〈アセフェート粒剤〉



ラベルをよく読む。

記載以外には使用しない。

小児の手の届く所には置かない。

殺虫剤

「シンノン興農」ジェネレート[®]粒剤 〈アセフェート粒剤〉

⚠【安全使用上の注意】

- 解毒剤……硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤
- 眼に入らないように注意。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける（刺激性）
- 散布時は、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼する。
- 街路、公園などで使用する場合、使用区域に縄囲いや立て札を立て、使用中及び使用後（最小限その当日）に関係者以外は立ち入らせない。小児、人畜等に留意する。
- ミツバチに対する注意
ミツバチ、アブラバチ等を放飼中の使用はさける。
- 桑葉にかからないように注意（蚕毒）
- つまみ菜・間引き菜には使用しない。

⚠【薬効・薬害等の注意】

- 使用量に合わせて秤量し、使い切る。
- 定植時に植穴処理をする場合は、苗質によっては土壌との混和処理が不十分な時に薬害を生じるおそれがあるので、十分に薬剤と土壌を混和する。
- 降雨直後等土壌水分が極端に多い時の定植時植穴土壌混和処理は、薬害を生じるおそれがあるのでさける。
- 芝に使用する場合、効果を安定させるために、本剤の所定量を散布後10アール当たり500～1000ℓの散水を行う。
- 使用量、使用時期、使用方法等を守る。適用作物群に属する作物又はその新品種に対しては、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。使用方法を厳守する。特に初めて使用する場合は、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

保管……密封し、直射日光をさけ、**食品と区別して**、冷涼・乾燥した所。

- 空容器（空袋）は圃場などに放置せず適切に処理する。
- 火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤等で消火に努める。
- 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収する
- 移送取扱いは、ていねいに行う。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アオムシ コナガ ヨウムシ アブラムシ類	3～6kg/10a (1～2g/株)	定植時	1回	植穴処理	2回以内(定植時までの処理は 1回以内、定植後の散布は1回以内)
はくさい						1回
かぶ	アブラムシ類	4kg/10a	収穫21日前まで		株元散布	
だいこん	アオムシ、コナガ、アブラムシ類	3～4kg/10a	は種前		作条散布	
なばな	アブラムシ類	6kg/10a (2g/株)	定植時		土壌混和处理	
ブロッコリー	ヨウムシ				株元散布	
きゅうり、 なす	アブラムシ類、オシツコナジラミ、 アザミウマ類	3～6kg/10a (1～2g/株)			作条散布 又は 植穴処理	
トマト	アブラムシ類 オシツコナジラミ					
みずな	アブラムシ類	6kg/10a			作条散布後 土壌混和	
チケンサイ		3～6kg/10a				
こまつな			は種前			
ごぼう			収穫75日前まで			2回以内(株元散布は 1回以内、散布は1回以内)
花き類・観葉植物 (さく、トルコギキョウを除く)		1～2g/株(但し、9kg/10aまで)	発生初期	5回以内	株元散布	5回以内
	アザミウマ類	2g/株(但し、9kg/10aまで)				
きく	アブラムシ類、アザミウマ類、 マメハモグサリハエ	6～9kg/10a				
トルコギキョウ	アブラムシ類、アザミウマ類	1～2g/株 (但し、9kg/10aまで)				
つつじ類	ツツジグンバイ	2g/株				
たばこ	アブラムシ類、ヨウムシ	3～6kg/10a	移植前	1回	作条散布後土壌混和	2回以内
芝	スジキリヨウ、シハツカ	10kg/10a	発生初期	5回以内	全面散布	5回以内
	タマナカ	5～10kg/10a				